「開国の地から新しい風を!!」 第45回 関東ブロックPTA研究大会全体会
「大人の背中」と「学校の応援団」を発信!

黒岩知事からは「恋する〜」のPRも!——式典

式典においては、柴田会長より、「大人の背中」の可能性と、私たち大人が子どもたちの範と成るべく襟を正そう、また「学校の応援団」として活動していこう、というメッセージが発信されました。

来賓の黒岩祐治神奈川県知事からは、少年時代の先生の教えを今でも大切にされているという話とともに、「恋するフォーチュンクッキー　神奈川編」のPRもしっかりしていただきました。吉田雄人横須賀市長からは、ウイットに富んだお話しをいただき、PTAに期待しているとメッセージをいただきました。

式典の最後には次回開催地、さいたま市の鵜沢会長から「神奈川大会宣言文」の朗読と満場一致の承認をいただき、今大会から発信すべきことを共有できました。

「恋するフォーチュンクッキー 神奈川編」のPRもしっかり行った 黒岩 知事

不偏不党から「偏ることなく」へ大きく転換——記念公演

公演会は、「劇団ザ・ニュースペーパー」による笑いあり、ぴりっと辛口もあり、の舞台。神奈川県Pとしては、本年のスローガン「大人の背中　〜楽しむ心〜」のとおり、大人の背中の大切さを訴えながらも、「楽しくPTA活動を!」という思いの実践、そして現在、日本PTA全国協議会（日P）が新たな規約に定める「特定の政党や宗教に偏ることなく、PTA活動を通して家庭、学校、地域の連携を深め、もって社会の発展に寄与することを目的とする【要約】」の実践として、旧来の「不偏不党」から大きく方向性を変え、政治的な話題を盛り込みながらも偏りのない構成・演出と、今後のPTAの方向性を盛り込んだ舞台となりました。

劇団ザ・ニュースペーパーの記念公演で即興参加する神奈川県PTA柴田会長

子どもたちの力と感動の輪——グランドフィナーレ

グランドフィナーレにおいては、日Pが主催する広報紙表彰が行われ、県内からは秦野市立南中学校が表彰を受けました。その後、大会旗の引継ぎが行われ、次に大会旗が神奈川に来るのは平成39年、年内にリニア新幹線が開通する予定の年になります。

そして、最後を締めくくる浦賀中学校の合奏、合唱。宇崎竜童夫妻の作曲による「風を感じる街〜yokosuka」から始まり最後は、唱歌「ふるさと」。

その圧倒的な子どもたちの合唱の力と、「ふるさと」の持つ、美しく懐郷の念をよみがえらせる詩、言霊、そして琴線に触れる音階に、会場に大きな感動の輪が幾重にも重なり合っているように見えました。

根本実行委員長が強くこだわった、「子どもたちのため、と思いながら活動をしているが、子どもたちから教えてもらうこと、感じさせてもらう事が沢山ある」という、PTA活動の姿そのものを、浦賀中学校からの素晴らしい歌の贈り物で、再認識できたグランドフィナーレとなりました。

「かながわ学舎　〜開国の地から新しい風を〜」の大会スローガンにふさわしい、共に集い学び、共に気づき、そしてPTAの新たな可能性と沢山の感動を発信できた全体会となりました。

会場中を感動と涙で包んだ浦賀中の合唱と合奏

今回の関プロ神奈川大会は、大人が学ぶ場、という基本理念のもと準備を進めてきました。直前には台風２７号による大会中止も検討されましたが、一日も欠けることなく、また、一人の講師も欠けることなく無事に大会を開催することができました。今大会にご理解、ご協力、そして参加をしていただいた本当に大勢の皆様に、心より感謝し、御礼を申し上げます。

実行委員長 根本 宗茂（横須賀市P）
「本当にありがとうございました!」

台風による大会開催のHP告知等、タイムリーに随時情報発信してくださる広報部会は、間違いなく今大会の「新しい風」の一つだったと思います。

また、広域開催ということで、開催地の横須賀・逗子・鎌倉・藤沢・茅ヶ崎の皆様には大変なご苦労をお掛け致しました。改めて御礼を申し上げます。開催地の皆様にとって、大変だったけれどやって良かった、と感じていただいているならこれ以上嬉しいことはありません。それぞれの個性ある分科会が各地で行われたことは、今後の県P活動にとっても非常に有意義なことであると感じています。

そして、今回の大会は開催地のみならず、県内各地から参加をし、ともに設営をして下さった各地会員の皆様のご協力なくしてはできませんでした。まさに神奈川県PTAの総力を挙げての全体事業でありました。OB、役員、理事からなる拡大実行委員会と市郡スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。

全体会では、リハーサルの段階から自分の役割をしっかりと果たし、時には臨機応変に対応する、神奈川県Pスタッフ・事務局と横須賀市Pスタッフ・事務局の底力を目の当たりにして本当に心強いと感じ、最後は浦賀中学の生徒たちの演奏の素晴らしさに感動しました。

私はというと、皆様に支えられて何とかたどりついた最後、県P大会を兼ねた会長挨拶をすることを司会アナウンスで伝えるところ、私が途中アナウンスを代わったときに飛ばしてしまい、県内の参加者も帰ってしまうという大失態で幕を閉じることとなり、柴田会長には大変なご迷惑をおかけしてしまいました。

約一年間、このように至らないところばかりの実行委員長で、不手際や失礼なことも多々あったことと存じますが、多くの方に、行って良かった、聴いて良かったと思っていただいていることを願ってやみません。本当に、本当にありがとうございました。

自ら進んで参加したくなる内容の大会を目指し、関東ブロックPTA研究大会の準備が始まってからあっという間の3年でした。

分科会部会長 河野厚子（葉山町P）
「充実した日々でした!」

実行委員会が立ち上がった当初、何のプレッシャーもなく会議に参加し大会への思いを大きく膨らませていましたが、分科会部会長に任命されてから不安に押しつぶされそうな毎日でした。どのような形で進めていけばよいのか全くわからず、実行委員長・学長の皆様には本当にご迷惑をおかけしました。多くの方々のご協力に支えられ、無事分科会が開催できたことに今感謝の気持ちでいっぱいです。この大会を通じて沢山の方々と苦労や達成感を共有できたことは、最高の思い出になりました。

今大会の分科会の運営は開催地の協力なしでは進められず、学長をはじめ開催地の皆様は大変苦労されたことと思います。しかしどの分科会も細かな所まで気を使いながら準備が進められ、様々なハプニングにも臨機応変に対応しながら成功を収めることができました。開催地・協力市郡PTAのボランティア精神、そしてチームワークの素晴らしさを改めて感じております。

分科会当日は、大型台風の直撃を恐れながらの悪天候にもかかわらず、本当に多くの皆様にご参加いただきました。参加された皆様は素晴らしい講師陣の講演にうなずき、先進的な取り組みをしているPTAの活動に刺激を受けられたのではないでしょうか。また、第6分科会かながわ学舎のパネルディスカッションは、今後の教育界に一石を投じられたのではないかと自負しております。

最後に今大会の分科会のためにご尽力いただいた運営委員の皆様、また当日ご協力いただきましたスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

今大会で得られたものを、会員の皆様の家庭・学校・地域で、少しでも役立てていただければ幸いです。

詳しくは県Pホームページも見て下さい　**http://www.pta-kanagawa.com/**

第1分科会 よこすか学舎

よこすか学舎（第1分科会）が10月26日（土）ベイサイド・ポケットにて開催されました。

記念講演では、宮本延春氏より「オール1の落ちこぼれ、教師になる」の演題にて、ご自身の小中学校時代のいじめなどの辛い体験や教師を目指したきっかけなどを会場内から多くの笑い声が聞こえるような楽しいエピソードも交えながら語られるとともに、子どもの笑顔を守るために大人ができることは、大人自身が毎日楽しんで笑顔でいることが大事であるとのメッセージをいただきました。

小林　誠（秦野市P）

研究発表では、「情報社会を生きる子どもたちを守るために大人ができること」を研究テーマに、茨城県 PTA 連絡協議会の多田厚史氏、小又和洋氏による実践発表、川崎市 PTA 連絡協議会顧問の田島和彦氏による講評、コーディネーターとして横須賀市 PTA 協議会の関直樹氏を加えてのディスカッションが行われ、情報化社会において子どもたちが輝くためには、PTA による効果的・効率的な広報紙の発行や青少年を有害情報から守るための「メディア教育指導員」などの活動も通じて、大人自身が情報モラル・個人情報保護やインターネットリスクを認識・理解して対応する必要があることなどが話し合われました。

「オール1」からの宮本 延春 先生

今回の記念講演・研究発表により、よこすか学舎に参加した PTA 会員は、「大人の背中」を具体的にどのように子どもたちに見せていけば良いのかについて貴重な示唆を得ることができたのではないかと思います。

第2分科会 ずし学舎

当日スタッフを観客席に召集。「悪天候の中来場くださった皆さんに来て良かったといただけるようスタッフ全員が終始笑顔で皆さんをお迎えしましょう。イレギュラーは必ず起こる。だからこそ皆さんで支えて楽しんでください。」この言葉が分科会の幕開けとなりました。

遊部 裕司（海老名市P）

前日の台風・地震もありまずは避難誘導の導線確認を全員で行い、各自持ち場ごとのミーティング。受付でスタッフを見ていると、緊張感の中にみんなが笑顔で接している風景がとても印象に残りました。記念講演の渡辺 徹氏のお話は『夢の実現へ向けて』をテーマに高校の時に生徒会長をしてみんなと何かを作り上げる素晴らしさを知って、演劇の世界に入ったと言うお話がありました。また、劇団の先輩から言われた『何でも一生懸命やれば全て血となり肉となり骨となる』という言葉はPTA にも通じる言葉だと感じました。

実践発表では、ゆるキャラさっちゃんの登場で場は和みましたが、本題のお話は、「防災」をテーマにした「防災サバイバルキャンプ」、実際に東日本大震災で被災にあった学校ということもあり会場は本気モードでした。

青春スターそのままの渡辺 徹 氏

第3分科会 かまくら学舎

かまくら学舎は、鎌倉芸術館にて、教育評論家の尾木ママこと尾木直樹氏をお招きし、『グローバル化時代の子育て・教育』と題し講演していただきました。

尾木ママ 直樹
圧感のステージでした!!

会場から巻き起こる「尾木ママ」コールに応え、テンション高く登場です。

中でも、一番印象に残ったのは、世界から見ての日本の教育についてです。

例えば義務教育の長さも、世界基準で言えば短い。英語も教わるだけで使う場所がない状況では、喋れるようにはならない。

日本は今、東大を出ても就職難。企業に必要とされる人材は、世界で通用するスキルを持つ人。

これからは、国際社会に対応できる、障がいの有無に関わらず誰もが地域で学べるインクルーシブ教育、個の教育が大切、教育は未来への投資と言う尾木ママの熱い思いが伝わってきました。

鈴木 敦子（小田原市P）

講演の前に、研究テーマである「学校保健・食育ー子どもたちの健全な成長のための家庭・学校の役割」について、横浜市立相武山小学校と栃木県那須烏山市立七合小学校、両 PTA による発表があり、それぞれの学校が、子どもたちの安心・安全な生活、児童の生活リズム向上等について、地域と学校、PTA が連携し、体験活動やサポートを行なっている素晴らしい事例でした。

かまくらの学び舎で、子どもたちの未来を真剣に考え、同じ時間を共有できました。多くの PTA の皆様が感動とともに持ち帰ってくださったことと思います。

第4分科会 ふじさわ学舎

ふじさわ学舎では、研究テーマを「家庭・学校・地域の連携充実のためPTAが担う役割について」として実践発表が行われ、記念講演では東京工芸大学教授大島武講師をお招きして講演が行われました。

井出 茂康（藤沢市P）

自分の体験談を交えながら、伝えることのむずかしさや伝え方の工夫によって伝わり方が大きく違うことに気づかされました。

自分を成長させるために、今決断していくことも凄く必要だとも感じました。何歳になっても大丈夫だと思わないようにしなければだめだと言うことの挫折感について!すごく重要でした!

実践発表については、今大会では一番多い、3校の事例発表が行われ多くの方が学ばれていかれたことと思います。そしてその内容すべてが、流石と思わされる地域連携でした。家庭・地域・学校それぞれが個々の特徴をできる限り、発揮して、相手にできないことをそれぞれがカバーしあいながら連携を取ることによって、一つの事業が成り立っていくことを学びました。また、当たり前かもしれませんが、継続していくためには更なる努力とまとまりが必要なことも感じ取れました。これからを考えていく中で子どものために、PTAとして、どうしていくのが良いのか何ができるのか、時代の変化とともに変わるPTAを感じました!

「伝えることって大切」と大島 武 先生

第5分科会 ちがさき学舎

ちがさき学舎の研究テーマは「組織・運営」で、616名の方にご参加いただきました。

城田 英昭（茅ヶ崎市P）

まず、記念講演として、東京都初の民間校長として杉並区立和田中学校で５年間校長を務めた藤原和博氏にご講演を頂きました。当時のエピソードを交えてのとても楽しい内容のお話でした。中でも印象に残っているのは、土曜日寺子屋（トテラ）を創設したことです。これは、大学生ら地域住民が先生となり生徒に補習授業を行うというもので、このような地域との関わり方もあるのだなと思いました。会場の皆様もすっかり藤原ワールドの虜になってしまったのか、用意した書籍はほぼ完売となりました。

大きな動きで熱弁の 藤原 和博 先生

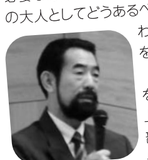
次に、研究発表として、千葉市立真砂中学校と新潟県小千谷市立南中学校に発表していただきました。真砂中学校は、地域内の小学校４校と中学校２校をそれぞれ２校と１校に同時に統廃合したという内容で、この統廃合に関わった全ての方にとても感銘しているという言葉が印象的でした。南中学校は、統合ではないが同じ校舎に小・中学校が同居しているという学校で、生徒数が少ないこともあるという内容で、全ての生徒のお父さんが PTA に関わっているということが印象的でした。

第6分科会 かながわ学舎

第6分科会、かながわ学舎では、研究テーマを「輝け大人の背中〜大人が変われば子どもは変わる!〜」として、基調講演とパネルディスカッションの二部構成で開催しました。

阿部 敏博（横須賀市P）

当初の予定より多い200名を超える参加者のなか、第一部では、講師に明星大学教授の高橋史朗氏をお招きし、「いま、なぜ親学が必要なのか」という内容でご講演いただきました。親として、ひとりの大人としてどうあるべきか、何をすべきかを様々な事例を踏まえ、わかりやすくお話しいただき、それぞれが意識を高めることができたのではないかと思います。


静かな語り口調ながら大きな気付きの 高橋 史朗 先生

第二部では、高橋史朗氏にコーディネーターを務めていただき、パネリストに小田原教育向上委員会委員長の田村洋一氏、神奈川県教育委員会教育局支援部長兼子ども教育支援課長の笠原陽子氏、神奈川県公立中学校長会会長の石渡篤美氏をお招きし、柴田正隆神奈川県PTA協議会会長を含めた4名で「いまだから、語ろう。〜体罰・学校の応援団、大人の背中」というテーマでディスカッションを行いました。

「体罰」や「モンスターペアレンツ」などのハードな設問のなか、ご自身のお考えや組織での取り組みについてお話しいただくとともに、クロストークで意見交換を行っていただき、参加者の皆様にはこれらの課題に取り組むにあたっての考え方や行動について発信することができたのではないかと思います。

参加者の皆様が気付いたこと、学んだことをそれぞれの地域で実践し、輝く「大人の背中」を子どもたちに見せていただくことを願いつつ、当分科会の開催報告とします。